

羅漢寺山・昇仙峡ハイキング報告

【山城】 山梨県：羅漢寺山・昇仙峡

【日程と天候】 2016 年 12 月 4 日（日）晴れ

【メンバー】 CL 菊池・SL 加藤・八角・寺崎

【行程】

千葉ー昇仙峡天神森市営駐車場（450m）8：43ー長トロ橋ー登山口ー太刀の抜き岩ー10：30 白山展望台ー11：07 白砂山ー11：40 パノ라마台（ロープウェイ頂上駅）ー茶店休憩ー与三郎岳（1053m）ーパノ라마台ー下山路（ロープウェイに沿った下山路ーロープウェイ駅出発駅ー昇仙峡観光遊歩道ー仙娥滝ー羅漢寺ー15：30 駐車場



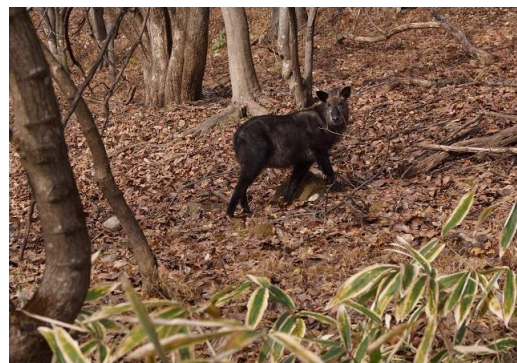
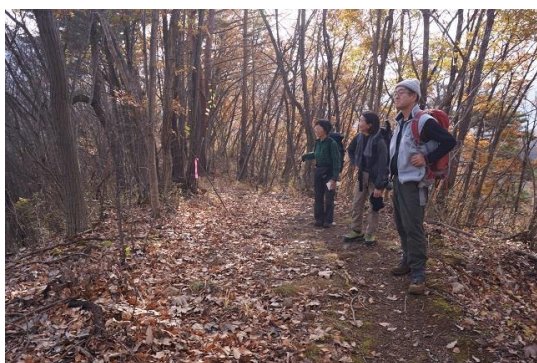
- ・富士五湖の西湖の北に位置する毛無山・十二が岳ハイクを予定していたが、11 月末の降雪により、鎖場・細尾根などスリリングな登山道にその影響が残っていることを懸念し、標高の低い安全な羅漢寺山・昇仙峡に変更した。11 月末までは紅葉の旬の時期で、休日は昇仙峡の駐車場までの一般車の乗り入れはできなかったが、12 月に入り昇仙峡周辺の駐車場への乗り入れが可能となっていた。

八角さんの報告です。

羅漢寺山は、山梨百名山である。白砂山、弥三郎山を総称した呼び名である。景勝地昇仙峡の側にあり、近くには、深田久弥ゆかりの茅ヶ岳がある。紅葉の終わった静かな初冬の山は落葉が敷き詰められ、われわれ4人を優しく迎いいれてくれた。葉を落とした檜林の風景も初冬の山にふさわしい。おもわず国木田独歩の名作「武蔵野」の世界が思い浮かんでくる。われわれは、昇仙峡の一番下の駐車場（天神森市営駐車場）に車を置き登山を開始する。登山口は長トロ橋を渡ってすぐ右にあり、ゲートを開けて入っていく。

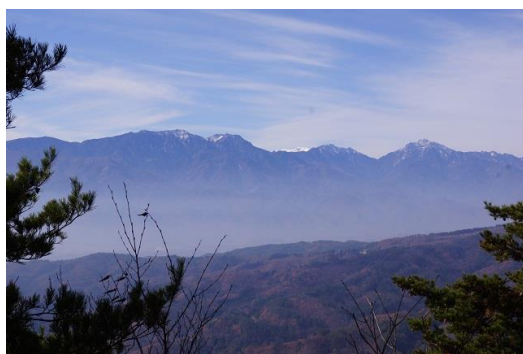


稜線までは、比較的無言で登る。稜線に出ると樹林の間に気品のある岩肌を見せる羅漢寺山が現れた。羅漢寺の山と名づけられている理由もなんとなく納得できる山容である。



しばらく歩くと、「あっ、カモシカだ」、と誰かが叫ぶ。大きなイノシシほどのカモシカが、われわれをじっと見つめている。われわれを恐れるというより、怪訝そうに興味深そうに見つめていると言った方が良さそうな目

つきである。カモシカとの距離は、十メートルちょっとか。カメラ目線でこちらを見て、いっぱい写真を撮らせてくれた。二、三十メートル、ゆっくり並走するように歩いただろうか。最後は、われわれ登山道の前を横切り谷の方に消えて行った。カモシカがわれわれの登山を出迎えてくれた。昔の寺跡（旧羅漢寺）と言われる低い石垣がいくつもある側を更に登って行くと、やがて白山展望台入り口にたどり着く。日頃、山中饒舌な菊池さんが言葉にならない雄叫びをあげながら展望台に走って行く。皆も追いかける。思いもよらない甲斐駒、鳳凰三山、南アルプス、富士山の絶景のパノラマを目にすることになった。白砂山までの登山道の斜面の一部、幅広い登山道であるにも関わらず倒木が道を塞ぎ、ルートが消えつつあるが、方向性さえ確認できれば、ルートファインディングは、さほど難しいものではない。白山展望台景色の余韻に浸りながら、頂上をめざす。



頂上（ロープウェイ頂上駅のパノラマ台）では、温かい日差しの下、休憩所で菊池さんおすすめのネギー杯入れた茸汁で一息きつく。

更に高い位置にある展望台から、甲斐駒や真っ白に染まった南アルプスの



景色を臨むことになる。この羅漢寺山の良さは、景色の素晴らしさにある。そして、富士山の形が特に美しく、素晴らしいと思えた。やはり、当たり前と言えども当たり前だが、景色の主役は富士山である。そう思えた。

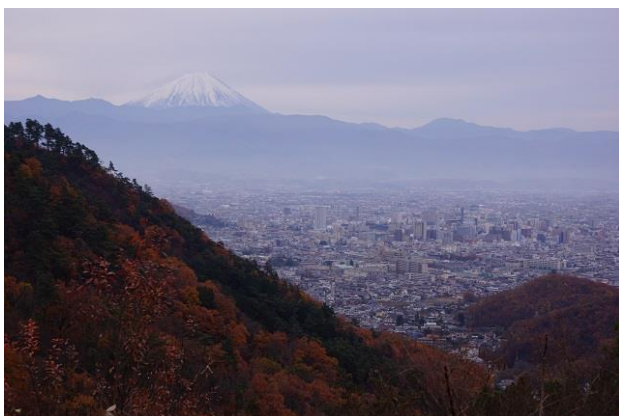
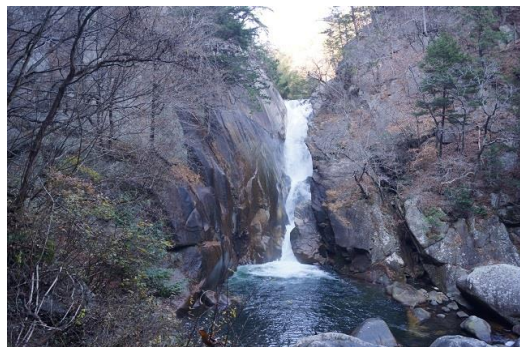


与三郎岳の往復は 40 分ほどかかる。頂上直下の岩場はステップがしっかり刻んであるが低姿勢で身体を捻って松の下を潜れねばならない。



下山は、昇仙峡の上部、「山梨ワイン王国」まで歩く。一部朽ちた木の橋のところがあるが、落ち葉が二重に敷き詰められたような所を歩き、この季節非常に快適な下山である。王国では、山梨ワインのレクチャーを受け、

1 時間半程の時間、昇仙峡の奇岩に付けられた名称をみんなで確認しながらゆるゆる駐車場にたどり着く。そうそう、羅漢寺にも寄った。渡る吊り橋の手前の落ち葉は、かき分けられている様子はなく、人の住んでいないお寺であった。



今回、登山状況の判断からやむを得ず場所が変更になったが、羅漢寺山、素晴らしい景色を臨む充実した山行となった。甲府市街地を見下ろす車道からの富士山も美しかった。夜景の美しい「ほったらかしの湯」に寄り、身体を癒し、

東京都内もすこし遠回りしたが、スカイツリーが睡眠に入っている時間帯、神々しく輝く東京タワーの夜景を見ながら千葉に帰って来た。羅漢寺山は、特別な体力は必要とせず誰にも勧められる山と言える。